子供の「学び」に着目し、教員の教科指導力向上、研修の仕組みの構築を目指した実践提案

全教員の教科指導力を向上させる「協同的な授業検討会」実践システムの構築

提案者　所沢市立並木小学校　　嶋崎（しまざき）　栄一（えいいち）　校長

実践に至った背景

◆　教科指導力・学級経営力は、先輩教員から新人教員へと知識・技能が伝承される側面が強かったが、「教職員の大量退職」等により、今後は、その伝承が困難となる可能性があり、これまで以上に組織的・計画的な教育活動、学校経営が不可欠であること。

◆　児童一人一人の学力と学習意欲の確実な育成のために、教員の指導力向上が不可欠であり、そのために意図的・計画的な授業研究の実践と、適切な研究協議会の運営が必要であること。

◆　学び続ける教員組織を育てるため、児童一人一人をよく見て、児童の事実から学ぶ気構えを学校全体で共有する必要があること。

実践の内容

●　授業の巧拙を問わず、児童に「学び」が成立しているかを問う「協同的な授業検討会」

1　「協同的な授業検討会」の導入について

（1）校内研修で取り組む教科・領域についての研修

- 取り組む教科・領域の特性や指導上大切なポイントを研修し、全教員で共有しておく。
- 研究推進委員会において、上記の特性や大切なポイントをもとに、研究主題に迫る研究の手立て（具体的な取組）を決め、学校全体で取り組む計画を立案する。【資料１】
- 研究の手立てに従い、具現化するための方策や支援の方法を学習指導案に明記する。【資料２】

実際の指導に生かすには、学習指導案に明記することが必要

（2）「協同的な授業検討会」の実施方法等の検討

- 校長は、学校課題や学校評価の結果をもとに「協同的な授業検討会」の実施を提案する。
- 研究推進委員会で「協同的な授業検討会」の内容とともに、実施の方法について検討する。
- 年間の校内研修日程を見通して、授業研究と「協同的な授業検討会」を校内研修に位置づける。

2　「協同的な授業検討会」の実施【資料３】

（1）前日の放課後２０分程度を利用して、授業者は研究の手立てに係る指導意図・指導内容を全教員に説明する。

全員が予め授業者の意図を理解しておく

- 司会は当日の司会者が行う。
- 質疑応答を行い、予め参加する教員は授業者の指導意図等を把握しておく。

（２）当日、授業を参観する。ビデオ操作係は、児童の学習活動を録画する。

- 授業者にピンマイクをつけ、発問や指示とともに児童への言葉かけを録音できるようにする。
- 参加者は２色の付箋紙に気づいたことを書く。
  - 黄：学びが成立している等の良い点、ふさわしい活動等
  - 青：学びが成立していない等の疑問点・改善点等

当日の役割：司会、記録、評価・まとめ、ビデオ操作

（３）授業検討会を実施する。

＜授業検討会の流れ＞

全体会（開会の言葉、指導者紹介）

↓

グループ協議

- 参加者は、前日に説明された授業者の意図等の部分の学習活動について録画を見る。
- 児童の「学び」が成立していない場合は、その要因について話し合う
- 付箋紙を拡大指導案に貼りながら進行する。

↓

全体会（グループ協議の報告、指導講評、指導者への謝辞）

↓

アンケート記入（【資料４】）

研究推進委員会が予め、学年が偏らないよう６～８人で割り振る

どのような学習活動、場面設定、指示、発問等が良いか協議する

付箋の貼られた拡大指導案は保管する

指導講評の時間は２０分を予定

全ての参加者が自身の実践を省察できるようにする

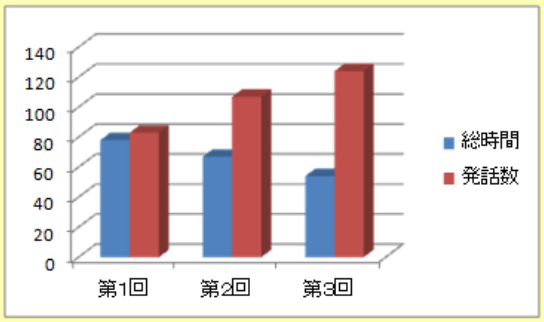
３　当該アンケートの活用

- 校長や教頭も確認し、教室訪問、自己評価に関わる面談等に利用する。
- 継続して総合的に全教員の教科指導力を向上させる。

成果や効果

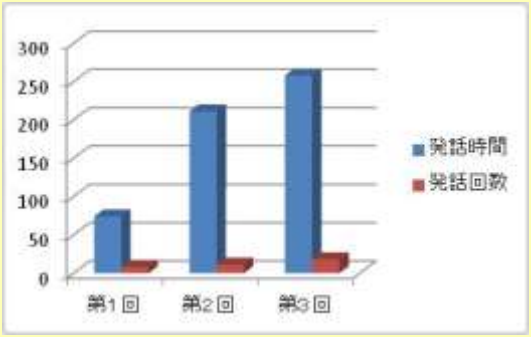
◎　授業検討会では、教員の意見交流が盛んになった。
◎　協同的な授業検討会の行い方に慣れ、実施時間が短縮した。
◎　授業者だけでなく、参加者も自分自身の指導を振り返るようになった。
◎　教員の教科指導力向上が見られる。
◎　学校課題を意識する様子が校内研修での発言や指導案に表れてきている。

＜参加者が交した意見等の回数と協同的な授業検討会にかかった総時間の変化＞



	第１回	第２回	第３回
総時間	７８分	６７分	５４分
発話総数	８３回	１０７回	１２４回

＜教職２年目の教員の発話回数と発話時間の変化＞



	第１回	第２回	第３回
総時間	７４秒	２１１秒	２５８秒
発話総数	８回	１１回	１８回

教職２年目の教員のアンケートの記述から

やはり私の説明がどうしても多くなり、もっと子ども達が活発に
学び合えるような授業を目指したいなと改めて思いました。
直接、間接比較の実測の工夫や、計算学習のあり方等、
多くのアドバイスを先輩先生方にして頂けて非常に勉強になり
ました。ありがとうございました。

３０代、４０代、５０代の教員のアンケート記述から

（授業者）が子どものつぶやきを拾う姿や注意の仕方が
ていねいなので参考になりました。
１年生がいっしょうけんめい授業に参加している
ので、子どもを魅きつける工夫もされていると
感じました。　（30代教員）

今日はありがとうございました。
（授業者）の子どもの意見を聞く姿が真剣で素晴らし
かったと思います。今後、自分も真似していきたいです。
お忙しい中、授業をしてくださった（授業者）、このような
研修の場を与えてくださった（本職）、ありがとうございました。（40代教員）

今回も自由に意見を言わせていただきありがとうございました。
参加教師の経験年数が高いので、お説教くさくならないよう
に…と思っています。今日は（授業者）が何を伝えたい
のか、子どもにどういう考えを言わせたいのか、意図を確かめ
た上で意見を言っている人が多かったように思いました。
（授業者）の問いかけに顔を輝かせて答える子どもたちの
VTRを見て、自分が授業をしている時は、子どもの表情を見て
いないような気がしました。同じことを長くしていると「こう進める
とこうなる」みたいな思い込みがあるかも…と反省しました。（50代教員）

実践事例を他校でも活用できる方策等

＊　他校で導入する際のポイント

☆　各教科・領域の指導で大切なポイント等を共有しておくこと

☆　「協同的な授業検討会」の司会者が各教科・領域の指導で大切なポイントを意識して進めること。

☆　研究推進委員会などで研究の手立てを決め、その方策等を指導案に明記すること

＊　失敗しないための秘訣

☆　授業の巧拙を問わず、児童に「学び」が成立しているかを問うという協同的な授業検討会の目的について周知すること。

☆　協同的な授業検討会の行い方を周知すること。

＊　こうすればより高い効果が得られるという方策

☆　校内研修計画とともに、校長は、校内研修の計画と自己評価に係る面談の計画や教室訪問の計画を予め心づもりをしておく。

外部有識者の評価

- 実践提案について、定量的・定性的観点からよく分析されている。
- 指導力の向上に向け、教師全員で高め合うような実践は、ますます求められることである。
- 授業力向上に資する検討会におけるモデルとなる実践でぜひ他校も倣ってほしい。
- 効果測定における分析の観点も良い。
- 授業検討の視点が児童の学びを中心となっている好事例であり、教育的意義も高い。

【資料１】

研究の手だて（第１年のもの）

校内研修に係る児童の実態・仮説・研究の手立て

並木小学校　1　学年

学校教育目標

「豊かな心」と「確かな学力」を身に付けた児童の育成

学年目標

・なかよくする子
・よくきく子
・げんきな子

研究主題

協同的な学びにより、思考力・判断力・表現力を伸ばそう

国語科の目標

国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力および、言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

サブテーマ

言語活動を通して、読みを深めあえる児童の育成をめざして

児童の実態

1　学習面
・課題に対して意欲をもって取り組む児童が多い。

2　生活面
・明るく、元気で、外遊びをよくしている。
・日常生活での話を集中して聞き、理解することが少しずつできるようになってきた。

指導の重点・努力点

○日常生活で活用できる言語能力を身に付けさせるために、言語活動例を通して指導事項を指導する。
○言語能力を定着させる指導と評価を工夫する。

目指す児童像

○　思いやりのある子
・進んであいさつをする子
・きまりを守り、協力する子
・進んで掃除をする子
○　よく考える子
・進んで学ぶ子
・よく聴き、よく考え、進んで伝え合う子
・自分で考え。判断する子
○　たくましい子
・めあてを持ってチャレンジし続ける子
・心と体を鍛える子
・健康で安全な生活をする子

所沢市の3つの宝

1　心身のたくましさ
2　未来を拓く知恵
3　ふるさと所沢を愛する心

所沢市 学び創造プラン

・授業の中に「考え、まとめ、表現する」場を設定しましょう
・生活習慣を見直し、家庭学習を習慣化しましょう。
・体験活動を充実させ、考える力、判断する力を育てましょう。

＜仮説＞協同的な学びを通して、語彙を豊かにすることで、言語に対するイメージが広がり、思考力・判断力・表現力を伸ばすことができるのではないか。

研究の手立て（具体的な取組）

①音読
・けやきタイムで今月の詩を音読させる。
・毎日家庭学習で音読させる。

②協同的な学び
・自分の考えをもたせる。
・友達の考えを聞き、さらに自分の考えを広げさせる。

③語彙を豊かにする
・読書　・日記　・スピーチ

④授業のきまり
・話型

仮説検証の計画及び成果と課題　〔1年〕

仮説に迫る手立て	5月	6月	成果と課題
① 音読	けやきタイム、音読、スピーチ	→	成スピーチは短い文章という事もあり、上手だった。 課今後はいつ・どこで・誰と・何をした、を話させたい。
② 協同的な学び	ふたりでおはなし、なんていったらいいのかな	→	成役割分担で場面理解させた。 課授業の組み立て方が課題。
③ 語彙を豊かにする	発問の工夫、読書、読み聞かせ	→	成読み聞かせなどで、少しずつ語彙を獲得している。
④ 話型	話型指導	→	課まだ、発表前に指名された段階での「はい」が抜ける。引き続き指導していく。

仮説に迫る手立て	9月	10月	成果と課題
① 音読	けやきタイム、音読、スピーチ	→	成文の内容を読み取って、場面の様子や登場人物の気持ちが伝わるよう工夫して読めるようになってきた。
② 協同的な学び	３人グループで自分の意見を話したり、相手の意見を聞いたりする。	→	成自分の考えを話し、相手の話を聞くことができた。 課意見の共通点を見つけられるよう指導していく。
③ 語彙を豊かにする	発問の工夫、読書、読み聞かせ	→	成物語、科学的な読み物など、読書の幅が広がり、語彙が豊かになってきた。
④ 話型	話型指導	→	成理由づけ、付け足し、同意する意見の話し方ができるようになってきた。 課指名された段階での「はい」が抜ける。

【資料２】

第１学年２組　国語科学習指導案

平成 25 年 11 月 27 日（水）　第４校時

１　単元名・教材名　おはなしを　たのしもう　『たぬきの　糸車』

２　単元について（略）

（１）児童観

（２）教材観

（３）指導観

３　本校研究主題との関わり

研究主題

協同的な学びにより、思考力・判断力・表現力をのばそう
～言語活動を通して、読みを深め会える児童の育成をめざして～

仮説

協同的な学びを通して語彙を豊かにすることで、言語に対するイメージが広がり
思考力、判断力、表現力のばすことができるのではないか。

手立て

①音読

・ねらいを明確にした音読をさせる。

・授業だけでなく、家庭でも音読の時間をしっかり取る。

・けやきタイムで今月の詩を音読させる。

②協同的な学び

・「つかむ（課題の確認）」、「一人読み（自分の考えを持つ）」、「深める(協同的な学びの話し合い)」、「広げる（発表）」、「まとめる（自分の考えの表現）」の流れで学習する。

・自分の考えをもたせる。

・友達の考えを聞き、さらに自分の考えを広げさせる。

・児童が互いの考えを尊重しながら適切な言葉で伝え合うことができるようにする。

・聞き手はうなずいたり返事をしたりして、話し手に反応し、友達の意見に質問したりしながら聞くようにさせる。

③語彙を豊かにする

・日直のスピーチでは、自分の考えを短い文章にまとめ発表することで、伝え合う楽しさを感じさせる。

・月曜日の「読み聞かせ」と金曜日の「朝読書」などで、読書への関心を高めさせる。また、関連する書籍を集めたコーナーを設置して、読書に広がりを持たせる。

４　単元の目標（略）

５　単元の評価規準と学習における具体の評価規準（略）

６　単元計画（略）

※「主な学習活動」の個人学習は(個)、グループ活動は（グ）、全体活動は（全）

７　本時の学習指導（７／１０時）

（1） 目標　場面の様子や登場人物がしたことを考えて音読したり、登場人物の心情を想像して表したりすることができる。

（2）展開

学習過程	学習活動	学習内容	授業形態	指導上の留意点と援助（＊） 評価の観点（◆）
導入 5分	1前時までの学習の想起 2第4場面を音読する。 3 課題を確認する。 糸をつむいでいるたぬきを見て、おかみさんはなんといっただろう。	・音読の仕方	全体	＊本時で扱う場面を捉えられるようにする。
展開 10分 5分	4たぬきやおかみさんの様子を表している言葉を理解する。 5糸車を回しているたぬきを見ているおかみさんの心情をワークシートに記入する。	・言葉の意味 ・ワークシートの書き方	個人	＊板戸に見立てたついたてを置き、動作化させたり、言葉の説明をしたりする中で、場面の状況を捉えられるようにする。 ＊どうして上手な手つきだったのかという理由にも触れさせる。 ＊ワークシートに書く内容を整理する。 ＊そっとのぞき、たぬきが上手な手つきで糸をつむいでいたのを見たおかみさんの心情を考えさせる ◆おかみさんの気持ちや様子を想像し、言葉を付け足したりしている。（ワークシート※下枠参照）

	【読むこと】の形成的評価	記入例	支援
C	おかみさんの心情を表す事ができない。	無記入	自分だったら糸をつむいでいるたぬきを見てどう思うかを考えさせ、それをおかみさんの心情につなげる。
B	本文の言葉を用いて、おかみさんの言葉をかくことができる。	・上手だな。 ・いつかのたぬきだ。 ・糸をつむいでいたのはたぬきだったんだ。	なぜ上手なのか、なぜ糸をつむいでいるのか理由を考えさせ、おかみさんの心情につなげる。
A	本文にない言葉を付け加えて、おかみさんの心情を表すことができる。	・あんなふうにできるなんて。 ・どうやっておぼえたんだろう。 ・たばねてつみかさねるのもわたしと同じだ。	（発展的支援として） 前場面までのたぬきの行動とおかみさんの心情を想起させる。

10分	6おかみさんの言葉を話し合う。	・話し合いの仕方・ワークシート	グループ	

		の書き方		＊グループとして言葉をまとめさせ、紙に書かせる。 ＊役割分担をして発表の練習をする。

	【協同的な学び】の形成的評価	支援
C	ワークシートをもとに、自分の意見を言うことができる。	似ている所に目を向けさせる。
B	ワークシートをもとに話し合い、共通点を見つけることができる。	どうしてその記述をしたのか、発表させる。
A	Bに加えて、友達の意見の良さを共有することができる。	

8分 5分	7 言葉を加えた音読を発表する。 8たぬき日記を書く。	・聞き方	全体 個人	＊四の場面では、たぬきはおかみさんに気付いていない事を捉えさせる。
終末 2分	9ふりかえり 10 次時の活動の確認をする。		個人 全体	

8　板書計画（略）

【資料３】

協同的な授業検討会の流れ

0　指導者を招聘する。本校では、当該教科について研究・実践を重ねてこられた方にお願いする。指導者には、予め本校が全教員の教科指導力の向上を目指し「協同的な授業検討会」方式を採用していることをお伝えし、その流れについて説明をする。指導・講評は、6　記録・まとめ係が今回の協同的な授業検討会のまとめを行った後にいただくことを伝える。

授業者は、指導・助言をいただきながら、研究の手立てのうち、どれについてどのように取り組むかを決める。

1　授業前日に、授業者は全教員に授業について説明する。

（1）授業者は、研究の手立てのうち、どれについてどのように取り組むか授業の意図や重視したい学習活動等を参加者に説明する。

（2）参加者は説明を聞き、授業者への質問をとおして予め授業者の意図を理解しておく。

2　授業検討会での役割を分担しておく。

（1）司会（主に研究推進委員から選出する）

（2）記録・まとめ係

（3）評価係

（4）ビデオ操作係

3　授業当日、授業の録画をしながら参観する。

（1）授業者にピンマイクをつけ、個別指導の声かけや児童の反応が録音できるようにする。

（2）参加者は、授業者の授業の意図や重視したい学習活動等を中心にして、よいと感じた点を黄色い付箋紙に、疑問に感じた点を青い付箋紙にメモしながら参観する。

4　協同的な授業検討会を行う。

グループの人数は６人から８人程度が意見が出やすく、適正規模である。担当学年が片寄らないように研究推進委員会で割り振る。

（1）司会者は、授業者から提示された授業の意図や重視したい学習活動等を中心に協議を行う。しかし、当該活動に係わる原因がそれ以前の学習活動にある場合は、それ以前の学習活動から協議する。

（2）参会者は黄色や青の付箋紙を貼りながら、意見や考えを述べる。

（3）ビデオ操作係は、当該学習活動の場面を再生し、授業の事実に即して協議が行われるようにする。

（4）授業者本人に意見を求めることもあるが、基本的には児童に学びを成立させるために、どのような学習活動、指示、発問等がよいのかを協議する。

5　一連の協議の後、授業者は協議の感想を発表する。

6　記録・まとめ係は今回の協同的な授業検討会のまとめを行う。

各グループで協議した内容をまとめ、発表する。

・授業者の意図した学習活動について児童に学びが成立していたか。

・どのような指導をすればよかったのか。または、どのような指導が適切であったのか。

7　指導者から本日の指導・講評をいただく。

8　アンケートに記入する。

【資料４】

あなたは、この授業検討会を通してどのようなことを新たに学びましたか。また授業検討会の中でどのようなことを感じましたか。自由に書いてください。
名　前